

## 令和5年度 宇治市献血推進協議会 議事録【概要】

日 時：令和5年7月13日（木） 14：00～14：50

場 所：宇治市産業会館3階 第一研修室

出席者：（協議会委員）

末吉敦委員、岸敬子委員、坂下弘親委員、辻鷹泰委員、佐野恵理子委員、  
森山玄慈委員、赤瀬真帆委員、大下明（重見博子委員の代理）

（京都府赤十字血液センター）

谷口課長、高橋主事

（事務局）

星川健康長寿部長、須原健康長寿部副部長  
田口課長（事務局長）、三好副課長兼地域企画係長  
川上主査

欠席者： 澤田祐樹委員、岸本幸三委員、高木啓暢委員、三好望委員

### 【次第】

#### 1 開会

#### 2 挨拶

#### 3 情報提供

##### 『京都府の献血の状況について』

京都府赤十字血液センター谷口課長より別紙資料をもとに説明

- ・ 令和4年度の京都府内での献血状況は、113,410人でした。各施設の献血割合ですが、献血バスで京都市内30.4%、福知山市11.7%であった。献血ルームで四条24.5%、駅前19.9%、伏見区13.5%であった。
- ・ 令和4年度の南部地区での献血状況は、宇治市で400mlは1,541名、200mlは12名、稼働数は30名、稼働平均は52名であった。献血センターでは、1稼働当たり50名を目指しており、ご協力いただけたと思っている。
- ・ 献血者の年間献血回数については、1回献血者が59%、2回献血者が25%、3回献血者が10%、4回献血者が1%、5回献血者が5%という状況である。59%の1

回献血者が2回献血していただければ安定した血液確保に繋がっていくと感じている。

- ・新型コロナ禍であったとしても献血者数は増加している。大学や病院等は外部の方の立ち入りを断られた関係で献血できなくなったが、代わりに、スーパーや大型のショッピングセンターに献血バスを配車して献血者数の確保が出来た。
- ・逆に、ゴールデンウィークに多くの方に献血していただく計画であったが達成できなかった。コロナ禍の非常時に献血募集が大変であるということで多くの方に協力いただけたが、5月8日にコロナが5類に移行後は、今までにできなかったことを優先される方が多くなったため、献血者が減少したと考えている。今後も平時に確保が困難になっていくのではないかと懸念しており、この場を借りてご協力をお願いしたい。
- ・職業別内訳を見てみると、会社員が全体の59%、公務員が25%、学生が10%、高校生が1%、その他が5%であった。
- ・年齢別内訳を見てみると、20代が15.0%、30代が14.0%、40代が22.3%、50代が30.5%、60代が14.4%、10代が3.7%であった。
- ・輸血を受ける患者の疾病は、病気の方の輸血が81.2%である。特に日本人は2人に1人が癌になるため、輸血が必要である。
- ・血液は人工的に作ることは出来ない。献血でしか血液はまかなえない。
- ・全血献血は、採血後28日間が期限であり、成分献血は血小板製剤だと採血後4日間が期限である。期限があるため、毎日どこかで血液が必要である。
- ・WEBサイトから献血予約の推進を行っている。令和4年度の予約献血の目標は68.8%だったが、実際の予約献血は48%、予約なし献血は52%だった。予約のメリットは、事前にベッドを確保できる、待ち時間がないなどがある。また、ポイントを貯めると景品と交換できる。予約いただくと献血センター側としても安定的な献血計画が立てられる。1日の計画60人とした場合、予約が30人あれば、当日呼びかけを30名と設定できる。
- ・予約キャンペーンを実施している。予約を推進していくため、6月は冷やし中華、7月はゼリーを予約していただいた方にお渡ししている。

#### <質疑応答>

- Q. 宇治市と人口が違う久御山町や京田辺市は400mlの献血人数が同数だがどうしてか。
- A. 実施場所によって人数が変わってくる。例えば、企業にお願いしていたり、久御山町では、イオンモール久御山で月1回実施していることから宇治市と同数となっている。
- Q. イオンモール久御山で実施しているとのことだが、アル・プラザでも実施しているのか。
- A. 城陽市や宇治市でも実施している。定期的ではないが年2・3回実施し

ている。

- Q. 久御山町での献血人数が多いが献血についての教育が進んでいるのか。  
A. イオンモール久御山について、来客者が多く、駐車場も広いため集客できていると考えている。

→ その他、質問なし。

## 4 議事

### (1) 令和4年度事業実施報告

○資料1-①～1-③に基づき事務局より報告

<質疑応答>

- Q. 京都翔英高等学校での取り組みは、令和4年度が初めてなのか。  
A. 今年で36年目になる。京都府内では、献血バスを使用し、3校か4校の高校にご協力いただいている。
- Q. 京都翔英高等学校は受付者数が120名となっているが、生徒も含まれているのか。  
A. 生徒も含まれている。
- Q. 教育委員会も啓発とか実施しているのか。  
A. 教育委員会を通し献血セミナーを進めていきたいと考えている。授業で献血について講義させていただくことは難しいため、献血セミナーを通し啓発していきたい。

→ その他、質問・異議等はなく、令和4年度事業実施報告を承認

### (2) 令和4年度収支報告

○資料2に基づき事務局より報告

○委員より質問、意見等なし

### (3) 令和4年度会計監査報告

○資料2に基づき監査委員より報告

○委員より質問、意見等なし

→ 令和4年度収支報告及び会計監査報告を承認

#### (4) 令和5年度事業計画について

○資料3-①、3-②に基づき事務局より説明

<質疑応答>

京都府赤十字血液センター谷口課長より

資料3-②より、日時未定となっている2事業について、令和4年度実績では、「愛の血液助け合い運動」街頭キャンペーンは、8月7日日曜日実施で受付64名、献血者57名であり、「はたちの献血」街頭キャンペーンは、2月1日水曜日に実施で受付33名、献血者27名だった。平日は献血者が減るため、令和5年度はできれば土曜日に実施したいと考えている。ご協力をお願いしたい。

- Q. コロナ禍で病院では輸血が足りない状況になったが、第1波を見ると献血が増加しているが何かアクションをされたのか。
- A. 緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発令されると減り、解除されると増加している。特に水泳の池江選手ご自身がお病気だったこともあり、SNSで献血にご協力していただく案内を発信して下さったことが影響していると考えている。

#### (5) 令和5年度予算案について

○資料4に基づき事務局より説明

<質疑応答>

- Q. 昨年、アル・プラザに行ったが、高齢者が多い中で60歳でも献血できるのかなど同じ質問が多かった。高齢者でもわかりやすい掲示物を置くなど対応してもらいたい。
- A. きちんと宣伝できるように行っていく。

→ その他、質問・異議等はなく、令和5年度予算案を承認

#### (6) その他

<質疑応答>

- Q. 当団体では、女性会員が多く、女性が献血を行う場合、貧血をよく起こす、体重が何キロかなど制限があったため400mlの献血ができず、その時、200mlも進めてもらえなかった。また、受付の対応が悪かったなどの意見も聞いた。200mlの献血をしたい声も多いが対応していただけないのか。
- A. 血液には有効期限があり、赤血球だと28日間しか期限がなく、使用できない場合は廃棄になってしまう。  
200mlは赤ちゃんの輸血で使用している。800mlだと400mlを2名分必要となる。200mlだと4名分必要となるため、使用する血液の人数が

多いと副作用のリスクが高くなる。400ml を推進している。  
受付の対応に関しては、指導していく。

- Q. 成分献血は、その時の血小板が足りないため成分献血をお願いするのか。体重の関係でお願いするのか。
- A. 献血は献血者の希望を聞き実施します。全血献血か成分献血か希望がない時は、在庫を確認してお願いすることもある。
- Q. 献血は 69 歳までできると聞いたが、70 歳以上の元気な方も多くおられる。年齢の見直しなどの議論はされているのか。
- A. 厚生労働省が定めた基準であり、議論はされているかはわかっていない。
- Q. 廃棄した血液はどれくらいあるのですか。
- A. 廃棄することはほぼない。血液型について、例えば A 型であっても A +、A - があり、200ml に関して一部、マイナスの血液については使用される方がいない場合もあり、必要としている病院に渡るように努力している。

## 5 閉会

事務局より報告

次回の会議は、来年 7 月頃の開催を予定。